

県老健 平成24年度 第3回看護部会研修会 アンケート集計結果

研 修 日 : 平成 24年 11月 27日(火)

会 場 : ウィリング横浜 12階
研修室 121・122号室

テ ー マ : 看護研究発表会

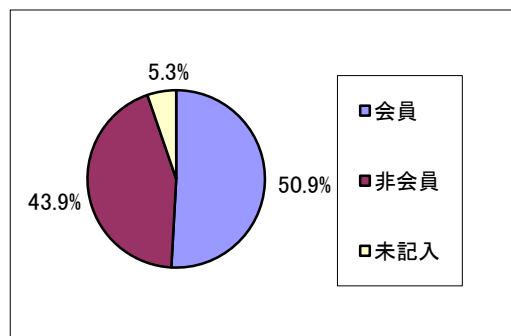
参加人数 : 76 名

集計枚数 57 枚
集計日 平成24年11月29日

☆ 参加者について ☆

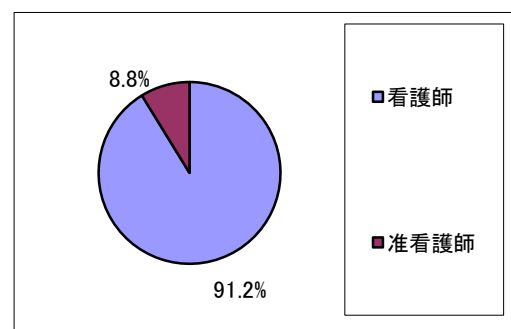
①看護協会入会の有無

会員	29 名	50.9%
非会員	25 名	43.9%
未記入	3 名	5.3%



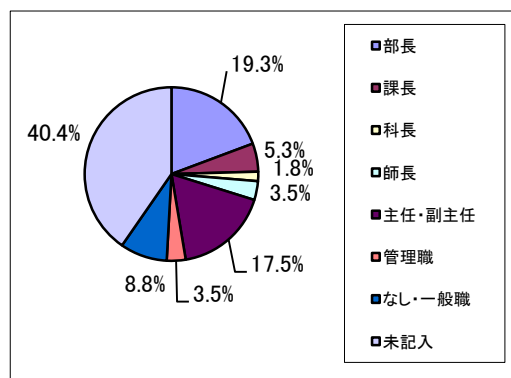
②職種

看護師	52 名	91.2%
准看護師	5 名	8.8%



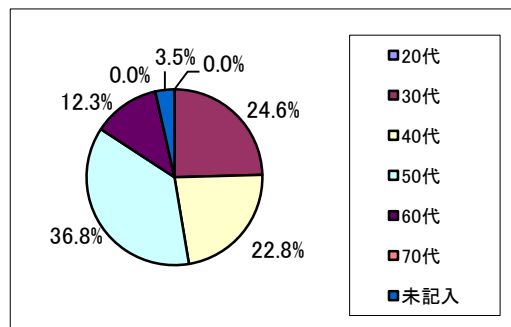
③役職

部長	11 名	19.3%
課長	3 名	5.3%
科長	1 名	1.8%
師長	2 名	3.5%
主任・副主任	10 名	17.5%
管理職	2 名	3.5%
なし・一般職	5 名	8.8%
未記入	23 名	40.4%



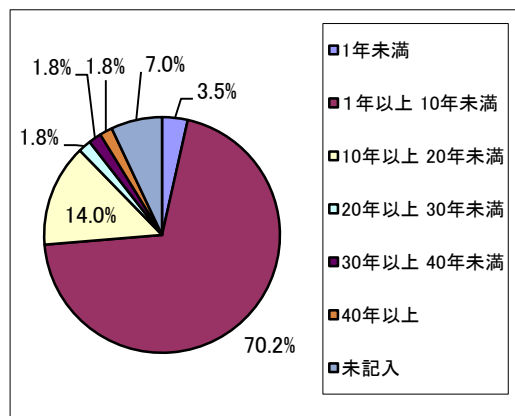
④年齢

20代	0 名	0.0%
30代	14 名	24.6%
40代	13 名	22.8%
50代	21 名	36.8%
60代	7 名	12.3%
70代	0 名	0.0%
未記入	2 名	3.5%



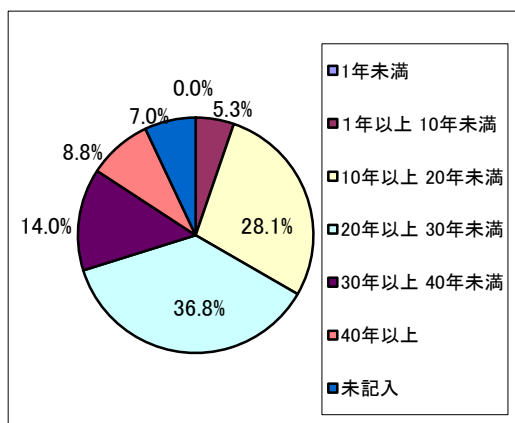
⑤現職での経験年数

1年未満	2名	3.5%
1年以上 10年未満	40名	70.2%
10年以上 20年未満	8名	14.0%
20年以上 30年未満	1名	1.8%
30年以上 40年未満	1名	1.8%
40年以上	1名	1.8%
未記入	4名	7.0%

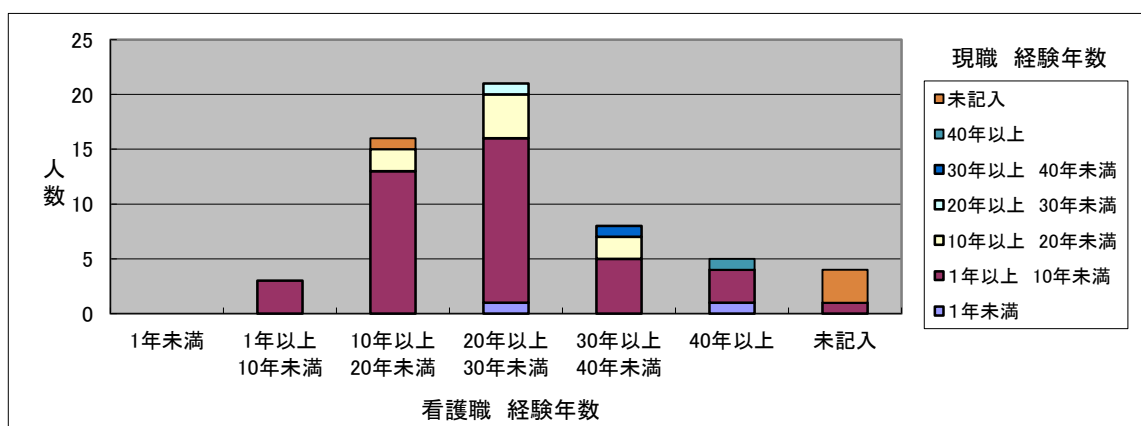


⑥看護職経験年数

1年未満	0名	0.0%
1年以上 10年未満	3名	5.3%
10年以上 20年未満	16名	28.1%
20年以上 30年未満	21名	36.8%
30年以上 40年未満	8名	14.0%
40年以上	5名	8.8%
未記入	4名	7.0%

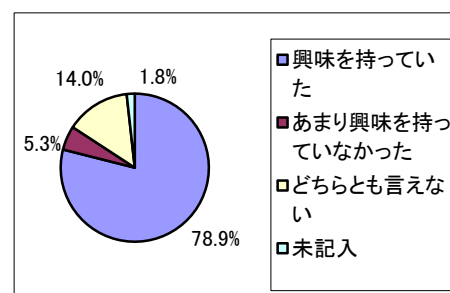


現職での経験年数 看護職経験年数	1年未満	1年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上	未記入	合計
1年未満	0	0	0	0	0	0	0	0
1年以上 10年未満	0	3	0	0	0	0	0	3
10年以上 20年未満	0	13	2	0	0	0	1	16
20年以上 30年未満	1	15	4	1	0	0	0	21
30年以上 40年未満	0	5	2	0	1	0	0	8
40年以上	1	3	0	0	0	1	0	5
未記入	0	1	0	0	0	0	3	4
合計	2	40	8	1	1	1	4	57



1.研修内容について

① 興味を持っていた	45名	78.9%
② あまり興味を持っていなかった	3名	5.3%
③ どちらとも言えない	8名	14.0%
④ 未記入	1名	1.8%



★理由

①「興味を持っていた」と答えた方

- ・他施設における看護職員のケア介入状況を知ることができた。
- ・老健施設における看護師の専門性について、各施設の取り組み状況を知ることのできる機会であるため。
- ・今後、新しい施設でのより良い看護・介護ができるよう、学びを深めたいため。
- ・学生指導や転倒転落に、常に私が悩む課題であったため、興味を持ちました。
- ・現職場でスピーチロックが目立ってきているため、他施設での現状・対策を知るため。
- ・他施設の興味もあり方を知りたかった。
自施設での看護研究の参考にしたかった。
- ・他施設のNsがどんなことを行なっているか知る機会がないため、今回楽しみにしていました。
- ・各施設の看護師の皆様が頑張っておられる様子を知り、励みになりました。
- ・老健における看護師の役割を踏まえ、業務をどのように捉えているか(他施設)を知りたいと思った。
また当施設の事情から、来年度には新しい組織としての立ち上げが控えており、そのときに残るNsに聞いて(知って)ほしいと思い、一緒に来た。
- ・スピーチロック・EPA・NST。
- ・施設で研究指導行なっているため。
- ・見えない拘束、スピーチロックは、認知症の現場のテーマであるため。
- ・経管栄養が増えてきたので、1人でも多く経口に戻せれば、という気持ち。
- ・今後、実習生受け入れ体制や転倒事故事例やスピーチロック廃止に向け、取り組み中のため、参考になった。
- ・自身が学びを深められると思い、興味を持っていた。
- ・他施設での看護的視点から見た取り組みに興味があった。
- ・日常的にあたる問題が多かったのだ。
- ・老健での看護研究発表が少ないため。
- ・認知症ケアについての演題。
スピーチロックの研究を施設でも現在行なっている。
EPAやNST、臨地実習指導者など、興味深い。
- ・初めての参加であり、他の施設での看護に興味があった。
- ・老健におけるNsの活動状況を知りたいと思った。

(①「興味を持っていた」と答えた方 つづき)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 他施設の取り組みを知りたかった。・ 自施設での研究導入に役立てたいと考えていた。・ 他施設の様子が少しでも聞けると良い。勉強になります。・ スピーチロックについて自分も学び、アンケートを作っている途中なので。・ 今後、仕事を行なっていく上で参考にしていく。・ 日々、気になっていたことなどの演題が大半でしたので。・ 人間的に少ないNsの他施設での取り組みを聞きたかったので。・ 褥瘡予防、栄養、事故、教育、感染等と、興味あるもの。 |
|--|

②「あまり興味を持っていなかった」と答えた方

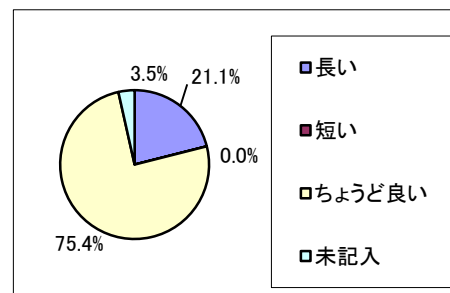
- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 内容を詳しく知らなかった。 |
|---|

③「どちらとも言えない」と答えた方

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 興味があるもの・ないもの、それぞれだった。・ 内容は、今日見たので、よくわからない。・ 研究発表の演題がわからなかったため。・ 業務命令。・ 内容は老健施設における現状把握ができるため、参考となった。・ 事前に、発表内容を聞いていなかったため。・ 事前情報収集が悪かったため。 |
|--|

2.研修時間について

① 長い	12 名	21.1%
② 短い	0 名	0.0%
③ ちょうど良い	43 名	75.4%
④ 未記入	2 名	3.5%



★理由

①「長い」と答えた方

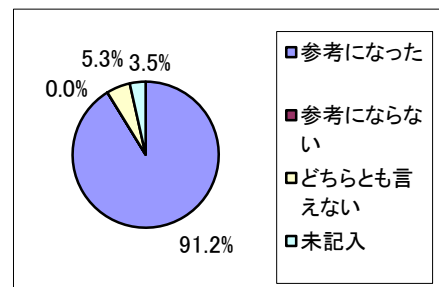
- ・ 発表時間を短縮し、質疑応答に時間を割いた方が良いと思う。
- ・ 全体としては長くないと思うが、進行が予定通りに行くような設定をお願いしたい。
- ・ 時間内におさまるようにしてほしいと思います。それが座長の役割の1つなのでは？
- ・ 時間制限があるのに、それに沿っていかなかったため、時間がバラバラ。
- ・ 予定時間をオーバーしていたので。
- ・ 1題1題はちょうど良い時間だと思いましたが、全部が長いと思いました。
- ・ 演題をもう少し絞って、意見交換ができれば良いと思う。
- ・ 1発表、7分前後にしていきたい。

③「ちょうど良い」と答えた方

- ・ 演題数によるもの。
- ・ 時間が午後とのことで、眠くなる。
- ・ 発表は、やはりNsなので、もう少し時間を気にする発表がほしいと思う。
- ・ 短ければ短い方が良い。
- ・ テンポ良く発表されていた。
- ・ 演題全部をじっくり聞くことができた。
- ・ 午後からの時間帯が良く、終了時間も適切である。
- ・ 中間休憩もとられていたので、気分を変え、後半参加させて頂いた。
- ・ 半日くらいであったためちょうど良い。(1日は長い。)
- ・ 1演題 7分は、とても良かったと思う。
- ・ 11演題なので、これくらいの時間はしょうがないかと思う。
- ・ 2時間前後が疲れにくい。
- ・ 現在の演題数であれば、今の構成が良いと思います。もう少し長めに時間をとって良いかと思っています。
- ・ 充分時間をとっていただいて、ありがとうございます。

3.研修発表内容について

① 参考になった	52名	91.2%
② 参考にならない	0名	0.0%
③ どちらとも言えない	3名	5.3%
④ 未記入	2名	3.5%



★今後、取り入れられるもの・実践することができると思うもの等

①「参考になった」と答えた方

- 前半の演題「⑤NSTの役割について」他1名。
利用者様のQOL・健康面だけではなく、褥瘡やリスク、職員の意識・業務効率など、多角的視点を持って取り組む必要性を感じ、自施設ですべきこと・できることは何かを考えてみようと思いました。
- スピーチロックのケースレコード、やわらか食 等、興味深いことがたくさんあり、勉強になりました。
- 転倒転落事故のカンファレンス ・ 在宅復帰へつなげる看護の役割 ・ フットケア。
- 自施設でのマニュアルの見直しの必要性。
感染管理の看護・介護の周知徹底と実施訓練の必要性。
- NSTや褥瘡は、とても参考になりました。
学生指導についても、今後の参考にしたいです。
- 日々、自分たちの業務・意識を振り返ることができた。
開設短い施設の発表があり、刺激を受けた。
- 現実的には難しいが、NST導入は利用者様のQOL向上につながると思い、取り組みができて素晴らしいと思う。
感染予防マニュアル(インフルエンザ)は見やすく活用しやすいものであったと思いました。
- インフルエンザ ・ 感染予防について。
- NSTの取り組み ・ フットケア ・ 分析シートの活用。
- 褥瘡ケア ・ 感染予防対策 ・ フットケア ・ 見えない拘束→スピーチロック。
- 見えない拘束への取り組み ・ 感染予防について。
- 事件事例検討について。
- 演題③④ について、当施設においても取り組み強化したい研究内容でした。
(③認知専門病棟における振り返りカンファレンス ④見えない拘束への取り組み)
- 事故対策について、経管栄養から経口摂取にむけてについてのテーマは、今後、施設で皆で取り入れていけたら良いと思いました。
- 振り返りカンファレンス 他1名。
内1名：転倒カンファレンスについては、さらに研究したい。
- どの発表も、現場での実践を振り返るのに役立った。
今後は、当施設と照らし合わせて考えていけたらと思った。
- フットケア ・ 感染委員会チェックリスト。
- スピーチロック(言い換え) ・ 感染対策の取り組み ・ フットケア。

①「参考になった」と答えた方 つづき

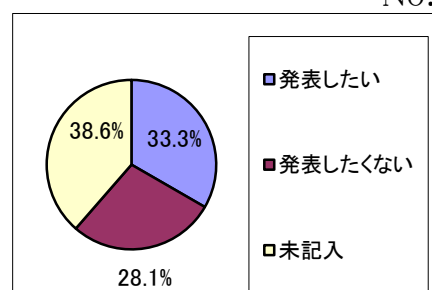
- ・ 転倒事故に対する考え ・ スピーチロックなどや、経口摂取に対する取り組みの大切さが理解できた。
インフルエンザのマニュアルを参考にしたい。
- ・ 臨地実習指導者研修を受けさせたい。
NSTの導入 ・ フットチェックの必要性は感じていたので、チェックリスト等、実施していきたい。
- ・ フットケア。 他4名。
内1名 : 参考になりました。できれば、もっと詳しく聞きたかったです。
内1名 : 取り入れたいが、人員の問題がある。
内1名 : 老人施設でフットケアができることに感動。 当施設でもできるといいと思った。
- ・ ほとんどの演題内容は、自施設で行なっていることだが、研究としてまとめることでより深い学びや意欲・意義につながると思いました。
- ・ 看護学生への関わり ・ フットケア。
- ・ ①③④⑦⑧⑨⑩⑪
同じようにやっていることもありますが、違った角度からの意見・見方があり、参考になりました。
どこの老健も頑張っていることに、頭が下がります。
(①学ぶ力をサポートしたい! ③振り返りカンファレンス ④見えない拘束 ⑦褥瘡ケア ⑧インフルエンザ対策 ⑨感染予防委員会 ⑩老健看護師の役割 ⑪フットケア)
- ・ 11演題すべてにおいて、とても参考になるものでした。
- ・ 経口移行取り組み、重要だと思います。 他1名。
- ・ ウェルケア新吉田におけるNSTの役割と活動。
11席のフットケアに関すること。
- ・ ターミナルケアに近い癌末期の方の入所を受け入れ、在宅復帰に至った例に勇気づけられました。

③「どちらとも言えない」と答えた方

- ・ 転倒転落前の状況を記録する必要性と、詳しく記入することにより、何としかったか・したいのかが見えてくる。

4.次年度の看護研究発表会について

① 発表したい	19 名	33.3%
② 発表したくない	16 名	28.1%
③ 未記入	22 名	38.6%



★理由

①「発表したい」と答えた方

- ・ 研究は自己の学びにもなるため、やりたいとは思いますが、来年より施設全体が変わってしまうため難しいとも思っています。
- ・ 今年度は施設内研究発表は介護のみになっていたが、次年度は看護も発表できるよう準備したいと思います。
- ・ 来年度に向けて、まとめたいものがあるため。
- ・ 施設での前向きな取り組む姿勢を通し、サービスの質の向上とスタッフのモチベーション維持のため。
- ・ 質問などを受け、修正や確認に繋げたい。
- ・ 当施設での課題となっているため。
- ・ ナースのレベルアップのため。
- ・ 老健看護部 活性化と、自己のモチベーション向上。
- ・ 発表できる内容はたくさんある。
- ・ 新しい気付きをさせてくれるから。
- ・ 看護研究は、看護活動していく中では必要不可欠なものです。
老健においても、どんどん研究をしていく土壌を築いてほしいと思います。
- ・ 柔らかか食。
- ・ 自施設でも取り組みを行ないたいし、まとめ、発表できればと思うのですが…。
- ・ 研究できるほど余裕がない。
- ・ 対象のまとめができない。 時間がない。

②「発表したくない」と答えた方

- ・ 看護職不足から困難。
- ・ 施設内での研究・発表の取り組みが、十分ではないため。
- ・ 段階的な取り組み(教育)が必要。
- ・ たぶん1年目で大変だと思うので。
- ・ なかなかそのレベルまでもっていくのが困難。
- ・ 計画がない。
- ・ 意識やレベルの向上をしてから、施設として研究発表に取り組みたい。
- ・ 業務多忙のため。
- ・ 常勤4名しかいないため、集まるのも難しいが、皆、研究に対して消極的。
- ・ 他のスタッフにも発表の機会を持たせてあげたい。

③未記入の方のコメント

- ・ どちらとも言えない。
- ・ 今後、研究を視野に、日々の業務に努めたい。
- ・ 発表したいが、準備不足のため。
- ・ どちらとも言えない。行ないたいテーマがありすぎて、未だ決まらないからです。

5.意見・感想など

- ・ 介護施設でのケアの中心は介護士であるが、やはり医療面のサポートはナースの仕事であることが更に痛感しました。
そのためには、看護師の力・技術・判断能力が、更なる向上が必要であると思います。
- ・ 看護師の研究は、感染防止・学生指導・事故防止・栄養・在宅復帰…と幅広く、どの症例も他職種で取り組まなければならず、情報の共有・チームケアの大切さを実感しました。
そのなかでも看護師は指導などリーダーシップをとっていかなければならないと思い、勉強になりました。
- ・ 次年度も期待しています。
- ・ 研究発表が活発化し、発表の場が確保されることは非常に有意義だと思う。
今後は研修に看護研究の取り組み方なども検討していただけると、看護スタッフも取り組むきっかけ作りになると思う。
可能であれば、発表施設所在エリアを知りたいと思う。
- ・ ①マイクの状況が悪く、声が届かないところが残念。
②後方席では、P画面が見えず、手元に資料が欲しかった(参照くださいと言われても…)。
③発表時間の7~8分がわかる優しい音があっても良いのではないかな。
- ・ また来年も、看護でお願いしたい。
- ・ 研究内容から参考にさせて頂くことがあり、イメージしやすかった。
研究を通して作成されたマニュアル・表などが、パワーポイントでは見えづらく、深く知ることができなかった。
- ・ フットケアについての取り組み、参考になりました。
- ・ 学生を受け入れ、指導していくことは、現場にとっては大変なことだと思うが、私の施設では看護スタッフが不足し、日々の業務をまわすことで精一杯なため、受け入れは断っている現状。
指導者研修に出す側の施設・受ける本人も大変ではあるが、私からすれば、学生を育てる現場に立ち合えて研修も受けられて幸せだなあと感じた。
医療依存度が高い方を受け入れる、という必要があるとのことだったが、徳洲会のような大きなグループであれば可能だと思うが、単独施設の場合は困難ではないかと思った。
研修そのものは素晴らしいと思うが…。
- ・ 資料等、参照とされる場面があったので、提出されているのなら抄録に入れてほしかった。
- ・ 発表者の声が小さくて聞きづらかった。マイク音量を良くしてほしかった。
- ・ 一般病棟と介護施設での看護職の役割の違い、病院を離れると質の向上を目指すには常に勉強が必要だと思いました。
いろいろな施設の取り組み、勉強になりました。

(5.意見・感想など つづき)

- ・ 発表内容は、去年よりレベルが高くなっていると感じました。
- ・ 他施設での取り組みを聞かせていただき、今後、取り込めたらいいと思います。
- ・ 忙しい業務の中、看護研究に取り組んでいる施設が多く、素晴らしいと思いました。
内容が、資料にないことが多いため、参考にしたいと思うが、どうしたらよいのかと思いました。
- ・ やらなければいけないことが、まだまだあるな、と感じ、焦りを覚えました。
- ・ 発表時間が短いので残念です。
- ・ 感染対策や老健Nsの役割など、参考になる部分も多くありました。
前半は、Nsより介護的な要素の多い発表であったと思います。
- ・ マイクの使用を検討してほしい。
声が聞こえないなど、係はチェックをして、調整してほしいと思った。
- ・ 是非、継続して、毎年実施してください。
また、研究の講義などがあると助かります。
- ・ 初めて参加させていただきましたが、今後も日々勉強して、入所されている利用者様が
笑顔で生活できるよう、日々努めたいと気持ちを新たにしました。
- ・ 今回の発表は、見ごたえ・聞きごたえがあり、とても有意義でした。
やはり介護者の発表とは一味違っています。
開設1年目での発表に、看護の意識の高さに驚きました。
他の施設も努力してもらいたいです。私どもも頑張ります。
残念なことに、声が後ろの方まで聞こえにくかったです。
- ・ フットケアについては、とても素晴らしいと思いました。
なかなか時間が取れず、集中してフットケアのみを行ない続けられないため、続けられたら
良いと思いました。